

おふくろ

原民喜

青空文庫

わたしはからくりめがねの夢になってしまふたのです

紺の筒袖と色黒ばばさんと

暗いカンテラと

お寺の磬石と

緋の着物に紅繻子の帯を締めた子娘と

さうして五厘の笛と

唐獅子と

わたしはお母さんに抱かれて居たいのです

風船玉が逃げぬやうにちつと握つてゐたいのです

(錢村五郎)

前吉は家へ帰つて来ると、老眼鏡を懸けて新聞を読んでゐる、おふくろの肩を小突いた。と、力が余つて、おふくろは横に倒れさうになつた。

「何を無茶するか。」おふくろは一寸怒つて前吉の腕を抓つた。と、彼は暫く痛いのを我

慢してゐたが、急に腕をはづして逆におふくろの腕を抓った。

「これ、痛いよ、お母さんを何と思ふのだ。」と、おふくろは前吉の脛をビシヤビシヤ叩いて悲鳴をあげる。

「俺だつていてえや。」と前吉はおふくろの頬ぺたに平手打ちを加へる。

到頭、おふくろは眼鏡をはづして興奮し出した。

「お母さんにむかつて何をするのさ、私は心臓が弱いからあんまり怒らすと死ぬるよ。」
おふくろは形相を変へて眼には涙を滲ませる。

「ババア」

「婆がどうしましたか、こののら息子め、身体ばつかし大きななりして、まるで餓鬼ぢやないか。」

「ええ、クソババア。」

「おのれ、まだよさぬか。」

それから暫くは小競合ひが続いてゐたが、不意と前吉は黙って行つてしまふ。

表に出て近所で煙草を買ふと、四五町さきの喫茶店へ入つて、彼は無表情な顔で煙草に火をつける。おふくろはほんとに慍おこつたのかしら……と彼は少しづつ気になる。しかし家

へ帰ればまた喧嘩しさうなのですぐには帰れない。前吉はソーダ水をストローで攪かきまぜて、
ちっと考へ込む。

青空文庫情報

底本：「普及版 原民喜全集第一巻」芳賀書店

1966（昭和41）年2月15日初版発行

入力：蔣龍

校正：伊藤時也

2013年1月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

おふくろ

原民喜

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>